

平成28年度 教育事業
第7回 チャレンジカヌーツーリング

大洲盆地を蛇行しながら流れる清流「肱川」の下流約10kmを、大洲市八多喜をスタートし、長浜河口まで一斉に川下りをしました。自然溢れる肱川の景色を楽しみながら、色彩鮮やかなカヌーの群れが流れる様子はとても壮観なものでした。ゴール後には、これからも美しい肱川の景観を維持するために、参加者全員で河口のゴミ拾いに汗を流しました。

国立大洲青少年交流の家では、昭和51年度より肱川を利用してのカヌー研修を導入し、多くの利用者にカヌー体験の機会を提供してきた。通常、研修支援プログラムとしてのカヌー研修は、肱川中流の川幅20メートル程度で流れも緩やかな200メートル程度の場所を「カヌー研修場」として設定し、実施している。希望に応じて上流からのカヌーツーリングも研修支援プログラムや事業として提供してきたが、安全管理の観点から対象は高校生以上であり、平水で6時間のカヌー実技研修と講義の受講を義務づけていることから、一般の利用者が気軽に体験することは難しいのが現状である。そこで、実施場所や実施時期等を考慮し、気軽に多くの方にカヌー体験の楽しさやカヌーを通して自然とふれあうことのすばらしさを身近に感じていただく場と機会の設定として、毎年秋に本事業を実施している。本事業は6年前から子どもゆめ基金オープンドリーム事業として、5年前からは子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業として実施してきた。平成26年度からは教育事業として実施し、今年度で7回目の開催となる。

これまでは日帰り事業として企画運営を図ってきたが、より深い学びにつなげる事業へと転換するため、今年度から宿泊型の事業にプログラムを変更した。カヌーツーリングをより安全に実施するため、カヌー実技の基礎講習を義務づけ、河川における活動の特性や安全に対する知識を習得する講義を導入し、ミニツーリングやロープワーク実習の実施なども加えた。また、活動のフィールドをより深く知るため、河川の防災に関する講義も取り入れた。

「カヌーの大洲」を看板に掲げる当施設の活動を啓発しつつ、地域全体でカヌーを用いた活動を盛り上げていくために、大洲市や大洲市教育委員会、大洲市カヌー協会、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所にもご協力いただき、実行委員会を設けて事業を企画運営した。

2 ねらい

10kmのカヌーツーリングを完漕することで、達成感や自然のすばらしさ、カヌーを漕艇する楽しさを感じるとともに、地域の活性化や清流「肱川」の美化を図る。また、カヌーによる体験活動の普及を図る。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

4 共催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会

- 5 後 援 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所
愛媛県教育委員会、(株)愛媛新聞社、(株)あいテレビ、(株)FM愛媛
- 6 協 力 介護老人保健施設長浜ひまわり・大洲市大和公民館
- 7 期 日 【ツアーリング本番】平成28年9月17日(土)～18日(日)
【参加者講習会】平成28年8月27日(土)～28日(日)
平成28年9月3日(土)～4日(日)
平成28年9月10日(土)～11日(日)
- 8 場 所 愛媛県大洲市肱川(スタート…八多喜祇園大橋 ゴール…肱川河口 約10km)
国立大洲青少年交流の家(カヌー研修場を含む)
- 9 対 象 小学5・6年生親子、中学生、高校生、一般
- 10 参加人数 96名 (募集人数80名)
- 11 参加費 小学生：3,810円 中学生以上：3,870円
参加者講習会及び本番の食事代、飲み物代、シーツ洗濯代、保険代等
- 12 講 師 国立大洲青少年交流の家職員、
大洲市カヌー協会会員、四国クリエイト協会会員、
国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所職員

13 日 程

【参加者講習会】

	13:00	13:30		16:30	17:30	19:00		20:30	22:30	
受 付	カヌー実習(平水版)		入所オリ エンテー ション	夕食 入浴	ツアーリング講座 ロープワーク等		就寝 準備	就 寝		
6:30	9:00						11:30	12:00		
起 床	つ い	清 掃	朝 食	カヌーミニツアーリング実習				解 散		

【ツアーリング本番】

	16:30	17:00	18:00	19:30		20:30	22:30	
受 付	開 会 式	夕食 入浴	河川の防災について(講義)		入浴	就寝 準備	就 寝	
6:30	9:00		9:30			13:30	14:00	
起 床	つ い	清 掃	朝 食	移 動	カヌーツーリング 八多喜祇園河原～長浜河口	昼食 清掃活動	閉 会 式	移 動

14 活動内容

I 参加者講習会

実習：カヌー実習（平水版）（13:30～16:30） 講師：国立大洲青少年交流の家職員

参加者講習会のスタートは、カヌー研修場でのカヌー実習（平水版）からはじまった。参加者の多くは集団宿泊研修でカヌーを体験したことのある小学生や、学生時代に研修経験のある保護者等であった。普段の研修はバディー形式での実習であったり、なるべく「沈」しないという約束のもとでの指導であったりする。今回は本番のツーリングを想定し、一人一艇の研修を実施した。通常の研修支援と異なる点として、実際に水中に投げ出されたときのことを想定して、全員がライフジャケットによる浮遊体験を行った。また、力強いパドリングを訓練するためにカヌーによる綱引きをしたり、艇を適切にコントロールさせる技術を習得させるために周回コースでのリレーを行ったりした。さまざまなプログラムを実習することで、参加者は短時間で漕艇技術を高めることができた。



実習：ロープワーク講習（19:00～20:00） 講師：四国クリエイト協会会員

夜間の講座は、前半に四国クリエイト協会会員によるロープワーク講習を行った。今回教わった「ふな結び」「いぼ結び」「かみくし」「もやい結び」の4つは、いずれも非常変災時や水辺の活動で有効な結束方法であり、講師からは具体的な活用方法が示されたあと、映像資料や演示を通して丁寧な指導が行われた。参加者は、配付されたテキストを見ながら一つ一つ手順を追い、熱心に実習に取り組んだ。講師による個別の指導等もあり、時間内にほとんどの参加者が全ての結びを習得することができた。



講義：カヌーツーリング基礎講習（20:00～20:30） 講師：国立大洲青少年交流の家職員

夜間の講座後半は、カヌーツーリングに関する基礎講座を実施した。はじめに活動のフィールドとなる肱川について、河川の特徴や流域の環境、文化等について解説した。次に安全にツーリングを行うための約束事を10項目に分けて説明した。さらに、瀬やエディー（淀み）など川の流れの特徴を解説し、瀬張り、テトラポット、橋脚等の障害物の紹介や回避の方法などを説明し、本番への注意喚起と意欲を高める時間とした。



実習：ミニカヌーツーリング（9:00～11:30） 講師：大洲市カヌー協会会員

講習2日目は、父橋付近からカヌー艇庫まで、およそ2kmのミニツーリングを実施した。参加者のほとんどがカヌーでの川下りが初めての体験であり、出漕前は期待と緊張の表情で準備を行った。河原では講師から「流れを感じながら川下りを楽しみましょう」とあいさつがあり、準備体操を済ませた参加者は順次スタート位置に着いた。ルートの中には2箇所の瀬があり、流れの急なポイントにさしかかると参加者からは一斉に歓声があがった。



ゴールであるカヌー研修場に到着したあとは、さらなる漕艇技術の向上を図ることを目的として、普段とは異なる方法でのカヌー漕艇を試みた。カヌーの上に座る、立つなどしてバランスを保ちながら操る方法を試した際には、子供たちの技能習得は早く、大人たちを驚かせていた。また、カヌーを用いたレクリエーションやゲームなどを行い、活動を楽しみながら、技量を高めていった。



II ツーリング本番

開会式：(17:00~18:00)

交流の家ホールで実施した開会式では、はじめに主催者である国立大洲青少年交流の家所長・佐藤悟があいさつを述べた。

次に、大洲市教育長・二宮隆久氏、大洲市カヌー協会理事長・島村弘幸氏にごあいさついただいた。二宮教育長からは肱川と大洲市の近代史について、水運産業や龍馬脱藩等を具体例で紹介がなされた。島村理事長からは「楽しくなければカヌーじゃない」という大洲市カヌー協会のキャッチフレーズをもとに、ぜひ当日のツーリングは水上からの景観を楽しみながら川下りを味わってほしいというメッセージが送られた。



講義：河川の防災について(19:30~20:30) 講師：国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所職員

夕食、入浴等を済ませた後、夜間の講義と翌日のツーリングに関するインフォメーションを行った。まず、「肱川の防災について」と題して、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所調査課長 高島愛典氏による講義が行われた。肱川河川流域の特徴や過去の水害が紹介され、国交省として取り組まれている災害救助の組織や防災をめざした地域づくりについての事例が紹介された。また、東日本大震災時の映像や写真を通して、災害が発生した際の心得や、防災、減災に向けて日頃心がけておくべき事項について、膨大な資料とともに紹介があった。



実習：カヌーツーリング(9:30~13:30) 講師：国立大洲青少年交流の家職員、大洲市カヌー協会会員

参加者は交流の家からバスでスタート地点の八多喜・祇園河原に移動した。会場に到着するとそれぞれが乗艇するカヌーを選んで準備を行った。参加者は3つのグループに編成し、それぞれに交流の家職員、カヌー協会会員がサポートスタッフとして5名ずつを配置した。グループは、3回実施した参加者講習会それぞれの参加者、担当スタッフをベースに編成し、コミュニケーションがとりやすい集団となるよう配慮した。各グループでは自己紹介、ツーリングに際する注意、準備体操等を実施し、最後にかけ声を挙げるなどして出漕に向けての雰囲気を高めていった。

準備が整った頃合いを見計り、当交流の家佐藤所長の手による出艇の太鼓が連打された。鳴り響く鼓動とともに参加者、スタッフ総勢78艇は一斉に長浜河口に向けてスタートを切った。



各グループは先導スタッフの指示のもと、緩やかな流れに身を任せ、ゆったりとカヌーを漕ぎ進めていった。親子での参加者、友人との参加者、また講習会で知り合ったもの同士が会話を楽しみながらカヌーでの水上散歩を楽しむ姿が随所で見られた。

中間地点の白滝橋を越えたあたりから全体のペースに遅れる小学生の姿も見られたが、顔見知りの参加者やサポートスタッフからの声かけ、アドバイスによってペースを取り戻し、ラスト2km付近の大和橋まで漕ぎすすめることができた。

大和橋以降はグループの枠を取り払い、参加者各自が各々のペースでゴールに向けて再スタートした。長浜大橋の手前にさしかかった頃、開閉橋が開きはじめ、参加者は一斉に橋の下をくぐり抜けた。参加者は最後の力をふりしぼり、全員が約10kmの全行程を漕ぎきった。

ゴールに到着した参加者は、カヌーや道具の片づけを行った。ゴール手前から降り出した雨は、次第に雨脚を強めてきたため、当初の予定を変更し、昼食休憩をとった。小雨になった時期を見計らい、参加者によるゴール地点周辺の海岸清掃活動を行った。海岸には漂流ごみが多く、燃やすごみと燃やさないごみに分別しながら回収した。参加者は今日一日のカヌーツーリングの様子を口にしながら、熱心に海岸清掃に取り組んだ。多くの参加者が一斉に清掃活動を行ったおかげで、少ない時間ではあったものの、大量のごみが回収された。参加者も気持ちの良い表情で清掃活動を終えることができた。また、天候が回復したところで、参加者全員による記念撮影を行った。撮影時には再度、長浜大橋の開閉があり、肱川下流域でのカヌーのロングツーリングにチャレンジしたことを記念する思い出の一枚となった。

閉会式では参加者を代表して、四国中央市から参加の菰田泰地さんに、交流の家所長が完漕証を手渡した。



15 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：77.1% *やや満足：22.9% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- とても苦しかったけれど、最後に橋をくぐったときの達成感は大きかったです。
- スタッフの方の声かけで、娘も完漕できました。講習会から本番まで、お世話になりました。
- 日帰りのイベントではなく、宿泊をして実施する方が時間に余裕が持ててよかった。
- 今までこの事業を知りませんでした。6回も見逃したと思うと残念です。また参加したいです。
- 子供には距離が長いみたいですが、頑張るにはとてもいい距離だと思います。大人はもう少し距離を伸ばし、1.5倍や往復でもよいと思います。

16 成果と課題

事業の実施にあたり、6月上旬に当所と大洲市（欠席）、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所、大洲市教育委員会、大洲市カヌー協会で行った実行委員会を開き計画を立てた。その際潮の満ち引きによる日時設定、時間管理、救助艇の配備、ヘルメット、ライフジャケットの着用などを確認し、コース周辺の施設や漁

協等に協力を依頼し、万全な安全体制で実施することができた。国交省大洲河川国道事務所長からは、ロープワーク講習について関連団体から講師の派遣が可能であること、大洲市カヌー協会からはミニツーリングのフィールド設定についてのアドバイス、また大洲市教育長からは移動用のトイレカーを申請し、利用ができること等、それぞれの委員から建設的な意見が提案され、企画に反映させることができた。

今回は昨年度の課題を踏まえ、カヌーツーリング未経験の参加者は全て事前の参加者講習会に参加し、カヌー漕艇の技能習得を目指した。このことより、ツーリング本番では漕ぎ進められない参加者はおらず、全員での完漕が実現できた。また、全員がゴールするまでの時間も過去最短の時間となった。さらに、参加者講習会で実施したミニツーリングでは、本番とは異なり、流れが急な箇所である「瀬」を下る体験ができた。この体験は参加者にとっても好評であり、次年度も企画に取り入れたい。ロープワーク講習については普段学ぶ機会の少ない内容であり、一様に熱心に取り組む姿が見られた。ある親子からは参加者講習会終了後、「(内容が同じなのは承知しているが) 次の講習会も参加してもいいですか。」といった問い合わせがあった。参加者講習会の内容が充実していたことがうかがえる。

一方、カヌーツーリング本番の参加者は過年度よりも減少した。理由として、カヌーツーリング未経験者への講習会を義務づけたこと、さらにそれが宿泊型の講習会であったことが挙げられる。教育事業としての内容の見直しと、ツーリング当日の安全性向上が目的であったが、次年度は参加者の増加をめざした取組を模索する必要がある。事前の問い合わせや事後アンケートから、「ツーリング本番と参加者講習会の実施日が近く、予定が立てにくい」「ツーリング本番に予定が入ったが、参加者講習会だけでも参加できないか」といった声が聞かれた。また、7月中旬に実施した別事業の参加者に本事業の広報を行ったところ、その直後に応募した参加者が多かった。このことから、参加者講習会を単独の事業として位置づけるとともに、ツーリング本番を上位の事業として、本事業を再構成することを検討したい。

今後も肱川を使ったカヌーツーリングを継続して行うことで、カヌーを通じた自然体験活動の推進を図ることができるものとする。その際、大洲市や国土交通省、愛媛県、大洲市カヌー協会、肱川漁業協働組合等、他団体と連携することで安全かつスムーズに事業運営ができるものとする。「カヌーの大洲」を謳う当交流の家の看板事業として、今後も発展的な企画の実施を検討していきたい。



(担当：企画指導専門職 森分 洋樹)